

## 中長期的に目指すべき理想の年代構成，職位構成に関する目標

令和4年11月25日  
学長裁定

上越教育大学における教育研究の活力を維持し伸ばすためには，年代構成等の偏りによる組織の硬直化を避け，一定程度の新陳代謝を常に維持することが重要となる。

このことから，大学教員の適正な年代構成の実現に向け，学長のビジョンとして中長期的な目標値を定めるものとする。

なお，本目標値は常に変化する社会情勢及び教職大学院として必要な実務家教員の確保等に対応するため，必要に応じて適宜見直しを図るものとする。

### 【目指すべき理想の年代構成（特任教員を除く）】

長期的な目標として目指すべき理想の年代構成を設定し，中期的な目標として第4期中期目標期間末である令和9年度末の年代構成を設定した。

区 分	40歳未満	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳以上
令和4年度末の年代構成【※1】	7%	26%	37%	30%
令和9年度末の年代構成【※2】	20%	20%	35%	25%
目指すべき理想の年代構成【※3】	30%	25%	25%	20%

### 【目指すべき理想の職位構成（特任教員を除く）】

長期的な目標として目指すべき理想の職位構成を設定し，中期的な目標として第4期中期目標期間末である令和9年度末の職位構成を設定した。

区 分	助教	講師・准教授	教授
令和4年度末の職位構成【※1】	4%	33%	63%
令和9年度末の職位構成	15%	25%	60%
目指すべき理想の職位構成【※4】	15%	35%	50%

※1 国立大学法人上越教育大学特任教員規程（平成19年規程第27号）第6条第1項第3号に規定する特任教員のうち，課程認定を受けた特任教員2人を含む。

※2 現状では，教職大学院における実務家教員（現場経験20年程度）配置の必要からシニア層及びシニア直前層の占める割合が大きいが，若手教員である40歳未満の構成割合にも配慮し，令和9年度末における年代構成を設定した。

※3 「科学技術・イノベーション基本計画（第6期）」において，研究力強化の観点から「将来的に，大学本務教員に占める40歳未満の教員の割合が3割以上」という数値目標が定められていることを鑑みて，最終的に40歳未満の若手教員比率を30%以上とすることを旨とする。

※4 「目指すべき理想の職位構成」においても，大学院設置基準及び専門職大学院設置基準並びに教職課程認定基準で定める職位別の教員数を踏まえた職位構成とする。